

実践記録（小6・体育科）

1 単元 ハードル走

2 ねらい

ハードル走の行い方を理解し、技能の向上を目指して客観的な情報から自分の様子を振り返ったり、仲間と情報交換をしたりすることができるようにする。

3 手立て

・ データ化した学習カードを使った振り返り活動

データ化した学習カードを使うことで、文章だけでなく動画や画像などを組み合わせながら、児童一人一人が学んだことを記録することができるようにする。

・ 仲間と気付いたことを伝え合う活動

判定カードを基に仲間と気づきを伝え合うことで、客観的に自分の様子を観察したり、振り返ったりすることができるようにする。

・ 体育科通信

教師がタブレット端末で作成した体育科通信や、自分の練習する様子の撮影動画を家庭に持ち帰り、家族と読んだり、見直したりすることで学習したことを家族と一緒に振り返り、技能の向上に対する意欲を維持することができるようにする。

・ 秘密道具の開発

児童が伸び悩んでいる技能を向上させるため、体の動きを視覚的に目立たせるための目印（秘密道具）をグループで話し合って開発することで、仲間が苦手としていることを自分事として考えて練習に取り組んだり、児童同士が互いに練習動作の中で注目すべきポイントを確認し合ったりすることができるようにする。

4 指導計画（8時間完了）

- (1) ハードル走に慣れよう・・・・・・・・・・1時間
- (2) ハードルをリズムカルに走り越えよう・・・・5時間
- (3) ハードル走の秘密道具を考えよう・・・・2時間

5 実践の様子

時数	主な学習活動
第1時	<p>(1) ハードル走に慣れよう</p> <p>第1時では、授業の前にタブレット端末で体育科通信を配付することで、児童は家族とこれからのハードル走の授業がどのように進められていくかをイメージすることができた。児童は、家族との話し合いで考えてきたハードル走の学習目標を発表することができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="933 1657 1157 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ジャンプ!! (第1号)</p> <p>2学期の体育科は「ハードル走」から始まります</p> <p>2学期が始まり、一週間がとうとうしてきます。日中はまだ暑いですが、夜は少しばかりか、ひんやりしてきたような気がします。季節の変わり目ですので、風邪をひかないよう十分に注意しましょう。</p> <p>さて、今回からタブレット上で体育科通信「ジャンプ!!」を通して、体育科の授業の様子をおうちの方々にぜひ知っていただくと考えております。また、一緒に子どもたちと体育科の授業について話したり、考えたり、ご家庭で練習ができたら、たいへんうれしく思います。もちろん、ご意見ご感想もいただけると大変助かります。</p> <p>文章だけではなく、動画やアンケート形式でご意見をうかがうこともありますが、よろしくお願ひします。</p> </div> <div data-bbox="1173 1657 1396 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アンケート（おうちの人と一緒に）</p> <p>①40m走のクラス平均は何秒だろうか？ <input type="text"/> 秒</p> <p>②40mにハードルは何個、配置するだろうか？ <input type="text"/> 個</p> <p>③ハードル走で気を付けるべきポイントは何か？ <input type="text"/></p> <p style="text-align: center;">自由に書きましょう</p> <p>第一回の授業は、40m走のタイムを計測します。これはハードル走にこれから取り組むにあたって、大切なタイムになります。</p> <p style="text-align: center;">目標を立てましょう</p> </div> </div>

<p>第2時 ～ 第6時</p>	<p>(2) ハードルをリズムカルに走り越えよう 第2時から第6時では、タブレット端末で配付した学習カードを使い、自分とグループの設定しためあてを意識しながら、学習に取り組むことができた。また、互いに撮影した動画を送り合うことで、瞬時に一人一人が客観的に自分の様子を振り返ることができた。ハードル走をリズムよく跳ぶために必要な「インターバル・走り越える・着地」の3つの動作のポイントを押さえた判定カードを児童に配布した。すると、児童が互いにアドバイスを送り合う際、この判定カードを基に、技能向上のために抑えるべきポイントを振り返ったり、この判定カードを仲間と送り合ったりすることで、互いの動作を観察し合い、協力しながら学習に取り組む姿が多く見られた。</p>	
<p>第7時 ～ 第8時</p>	<p>(3) ハードル走の秘密道具を考えよう 第7時から第8時では、児童が練習を進めるうちに明らかになってきた、「伸び悩んでいる技能」を向上させるため、体の動きを視覚的に目立たせるための目印（秘密道具）の制作を進めた。児童は、秘密道具開発シートに、ハードル走で自分が苦手とする部分を書き表し、それを克服するために視覚化したい部分や動作、目印となる秘密道具を考えました。そして、実際にその道具を作り、運動場で試している姿をタブレット端末で撮影して振り返ることで、明確になった修正すべき体の動かし方に気付くことができた。そこから、児童は秘密道具の開発を通して、互いに苦手な体の動かし方を伝え合い、それらを修正するために体のどの部分を見ればよいか、どんな体の動かし方に注目すればよいかを考えることができた。</p>	

6 成果と課題

- 互いに動画を撮影し合うことで、客観的に自分の様子を振り返ることができた。また、その動画を見て、児童同士が一緒に協力しながら技能を高めようとする姿が見られた。
- データ化した学習カードを使うことで、データの交換が可能になり、互いの練習の様子を見て気付いたことやアドバイスなどを気軽に送り合うことができた。
- 家庭に対して、体育科の授業の様子を発信したことで、保護者と児童と一緒に技能の向上について話し合ったり、新しい練習方法を考えたりする姿が見られた。
- タブレット端末の操作や文章入力に不慣れな児童は、技能の向上のための練習時間が短くなってしまった。